

第 20 回 職員配置とユニットの人数

近畿大学 建築学部
准教授 山口 健太郎



【経歴】

京都大学大学院を卒業後、株式会社メトス、国立保健医療科学院協力研究員を経て 2008 年より近畿大学理工学部建築学科講師。2011 年 4 月より現職。

特別養護老人ホームや小規模多機能型居宅介護などの研究を行うかたわら、高齢者施設の設計にも関わる。主な建物に「ケアタウンたちばな、設計監修、大牟田市」などがある。

ユニットケアとは、生活単位と介護単位を小規模化するとともに、両者を一致させることにより個別ケアを目指す介護の仕組みである。ユニット型の施設では、10 人の入居者に対して 1 つの介護単位を構成し、その中で介護シフトのローテーションを組む。毎日、固定された少人数の職員がケアを担うことで、個別のニーズをくみ取りやすく、入居者と職員になじみの関係性が築かれる。

また、職員と入居者の関係性としては、「3 対 1」という職員配置基準がある。特別養護老人ホーム等では 3 人の入居者に対して 1 人以上の職員を配置する必要があるが、その上限は介護報酬や経営理念により変動する。ユニットに職員を固定配置できるか否かは職員配置基準と密接なかかわりを持ち、両者が安定できるバランスが求められている。

① 望ましい職員の勤務シフト

1 夜勤 1 労働制を採用し、夜間は 2 ユニットに 1 名の職員を配置する場合、勤務シフトのローテーションを組める最少人数は 5 名となる（直接介助を担う職員のみで計算）。早出、日勤、遅出、夜勤、明け、休みの 5 名で構成され、概ね各時間 2 人以上のスタッフを配置できる。職員の休憩時間や入浴介助時には 3 名の職員が配置され、ユニット内に 2 人の職員が滞在できるようになっている。だが、朝と夜には 1 人介助の時間帯があり、朝の介助（離床、食事介助）は 1 人で行われることとなる。1 人での介助は慌ただしく、移乗介助を急いで行おうとすると腰への負担をかけやすい。労働環境と生活環境の双方からみて、全ての時間帯に 2 人以上の職員配置が望まれる。そのためには下図の朝と夜にパートタイムの職員を配置し、常勤換算で 6 人の職員配置にすべきと考える。

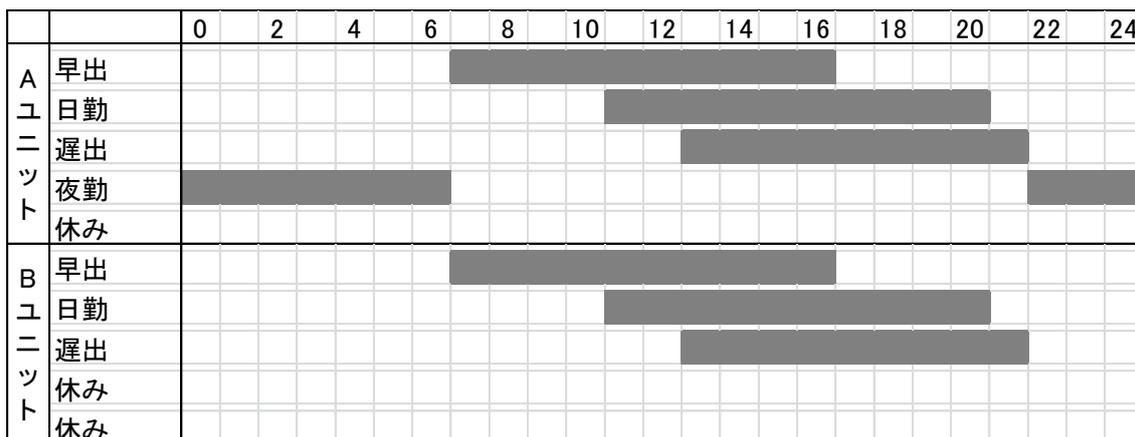


図1 職員シフトのモデル（2ユニットで1人夜勤の場合）

日本ユニットケア推進センター主催 施設管理者研修 井上由起子氏のスライドを基に作成

② 職員配置と1ユニットの入居者数

次に5人もしくは6人のスタッフを雇用するためには、各ユニットに何人の入居者が必要であるかについて考えてみたい。右図は1ユニットあたりの入居者数を6人、

表1 ユニット数と職員配置

| | 職員配置 | | | |
|---------|-------|---|-------|---|
| | 5人 | | 6人 | |
| 6人ユニット | 1.2:1 | × | 1.0:1 | × |
| 10人ユニット | 2.0:1 | ○ | 1.7:1 | △ |
| 12人ユニット | 2.4:1 | △ | 2.0:1 | ○ |

10人、12人で比較したものである。6人ユニットに5名もしくは6名の職員を配置した場合、職員配置は「1.2対1」と「1.0対1」となり、かなり手厚い配置となる。認知症高齢者グループホームでは、9人よりも6人の方がなじみの関係性を築きやすいという実践報告があり、生活単位をより小さくしていくことは有用と考えられるが、6人ユニットを持続的に維持していくためにはかなりの経営努力が必要であろう。次に10人と12人のユニットについて考えると、10人に対して6名の職員を配置すると「1.7対1」となり、現状の介護報酬ではこれも「一般的」とは言えない。一方、12人のユニットとした場合には、6名の職員を配置しても「2.0対1」で収まり、ユニット型の一般的な職員配置水準となる。つまりより手厚い介護を行うためには現状の10人という基準を少し緩和し12人とするのが望ましいと言える。

だがユニット人数が多くなると空間自体が大きくなり住宅的なスケール感を逸脱してしまう。さらに、職員と入居者のなじみの関係も薄れてしまう。個人的には1ユニットあたりの入居者数は12人（4人掛け机×3台）が限界であると考えている。また、介護単位は12人とするが生活単位は6人×2ユニットと考え、スケール感を抑えることも重要である。たとえばキッチンを中心に6人の食堂を2つ配置すると、より小規模なスケール感での生活が可能となる。そ

それぞれの食堂がゆるやかにつながればユニット内での人間関係の調整も行いやすい。

以上、現状の介護報酬の中で常に2人以上の職員がユニットに滞在する仕組みを構築していくためにはユニット定員を12人とするのが一案として考えられる。だが、ユニットの入居者数が多くなりすぎるのは危険であり、留意すべきでもある。現に私も昨年度までは8名であったゼミ生が今年から12名となった。たった4名の増加であるが急に研究室運営が難しくなったと痛感している。

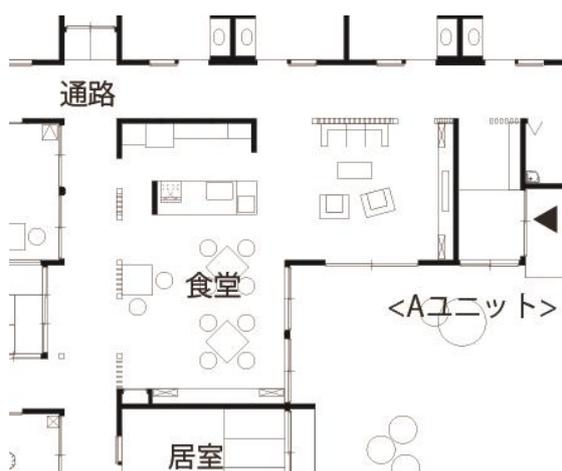


図2 キッチンを中心に6人の食堂が配置される

写真1 左図のレイアウト